

<研究主題>

主体的に学び合い、コミュニケーションの資質・能力を育成する  
外国語教育の在り方  
～第6学年外国語活動の指導を通して～

阿久根市立折多小学校 教諭 小倉郁美

目次

1	研究の概要	
(1)	研究主題	2
(2)	研究主題設定の理由	2
2	研究の構想	3
(1)	研究のねらい	3
(2)	研究の仮説	3
(3)	研究の計画	3
3	研究の実際	4
(1)	単元の計画<仮説1の検証>	4
(2)	実際の指導Ⅰ<各単元の指導準備>	6
(3)	実際の指導Ⅱ<仮説2の検証：各時の具体的な指導>	8
4	研究のまとめ	10
(1)	研究の成果	10
(2)	今後の課題	10

【参考文献】

- ・ 文部科学省 編『小学校学習指導要領（平成20年度告示） 外国語活動編』
- ・ 文部科学省 編『小学校学習指導要領（平成20年度告示） 外国語科・外国語活動編』
- ・ 文部科学省 HP

# 1 研究の概要

## (1) 研究主題

**主体的に学び合い、コミュニケーションの資質・能力を育成する外国語教育の在り方  
～第6学年外国語活動の指導を通して～**

## (2) 研究主題設定の理由

### ア 社会情勢から

国際化社会と言われて久しい。現代はまさにその中であって、国際情勢は日々変化している。今年オリンピック開催の年でもあり、それに伴い、多くの外国人の来日が予想されている。また、現代はネット社会でもある。インターネット上において、日本語の情報は全体の5%程度なのに対し、英語のコンテンツが占める割合は6割以上と言われており、英語ができるかできないかによって、情報収集能力に何倍もの差が付くとも言われている。

子供たちが生きていく社会は、日本国内であっても多くの場で外国語によるコミュニケーションが求められる社会であり、その中で、子供たちが不利益を被ることなく、より豊かに生きていくためには、外国語の習得は必須であり、小学校期からの継続的な外国語教育や英語学習は、時代の当然の要請と言えるだろう。

### イ 教育の流れから

来年度は新学習指導要領が全面実施される。新教科である外国語科の指導が始まる前に、教員が新しい外国語教育の内容や意味について学び、外国語教育の指導技量を身に付けることは必要不可欠であり、移行期間にそれらを授業を通して実践しておく必要がある。また、新学習指導要領においては、「主体的・対話的で深い学び」が求められている。外国語教育における「主体的・対話的で深い学び」とは何なのか、具体的な指導法・実践法について研究を進めておくこともまた重要な課題である。

### ウ 本校の研究から

本校では、平成29年度から、研究教科を外国語活動とし、研究と指導に当たってきた。その結果、外国語活動の授業が好きな子供は増えたが、積極的な交流を図るには至っていないことが分かったため、平成30年度からは「主体的に学び合い、コミュニケーションの資質・能力を育成する外国語教育の在り方」というテーマに絞って研究を重ねてきた。主に、全職員の英語力・指導力向上のための研修、系統的な指導計画の作成、インプットとエンジョイを意識した授業作り等を行い、実践を重ねたところ、子供の英語の技能と意欲に向上が見られた。このことから、本年度も昨年度の研究を継続し、研究をさらに深めていくこととなった。

### エ 小中連携の立場から

中学校英語への円滑な引継ぎを行うためには、小学校で十分に英語の音声に慣れ親しませ、豊富なインプットを行っておく必要がある。そのためには、小・中間の系統や連携とともに、小学校内での計画的・系統的な指導が必須であり、教師を含む学校全体のスキル向上、カリキュラムの見直しが必要である。また本年度は6年生担任であったことから、特に中学校へのつながりを意識した外国語教育の実践を行っていく。

### オ 昨年の自主研究の成果から

昨年度の自主研究の成果と課題は以下のとおりである。(平成30年度外国語活動実践記録より)

- 職員研修が教師自身の英語力のインプットとエンジョイの場となり、授業実践へのアウトプットにつながっている。
- 豊富なインプットと、楽しい授業展開を心がけることで、子供たちの英語力・意欲ともに向上し、自ら既習事項を使って表現しようとする姿が多く見られるようになってきている。
- 市の外国語部会と情報を共有したり、中央リーダー研修の内容を指導に取り入れたりすることで、学校内だけの研究ではない、より広がり深まりをもった研究にすることができた。
- ほとんどの授業が同じクラスの友達との交流活動にとどまっているので、もっと広がりをもち活動を取り入れるためには、どのような工夫ができるか、研究を重ねたい。

以上のような現状を踏まえ、「子供が主体的にコミュニケーションを図る姿」を目指し、研究を進めることとした。この目標を達成するためには子供一人一人の外国語の能力の向上と、外国語に対する意欲の高まりが必要不可欠である。それらを実現するためには授業作りにおいてどんな工夫が必要かを考え、実践をとおして検証していく。

## 2 研究の構想

### (1) 研究のねらい

主体的な学び合いや積極的なコミュニケーションのためには、何より子供たち自身が「表現したい」「伝えたい」という思いをもつことが大切である。そのためには子供たち自身の「本当の思い」を表現する場、すなわち「表現の必然性」を生む必要がある。そこで、子供たちの身近で興味のある状況を設定したり、豊富な交流場面の設定を行ったりすることで、表現の必然性を生み、子供たち自身の表現意欲の向上を図ることとした。

また、外国語活動において、自分の思いや考えを表現するためには、まずは言語材料の豊富なインプットが不可欠である。母国語の日本語と違い、英語は子供たちが日常生活で使わないものであるから、外国語活動の授業では子供たちにいかに多くの英語のシャワーを浴びせられるかが鍵となる。そこで、様々な場面を通して繰り返し英語にふれることができるように、板書や掲示物を整えたり、基本的にオールイングリッシュで授業を展開したりすることで、視覚的・聴覚的なインプットをねらった。

また、子供が多様な言語活動を飽きずに楽しく体験できるように、エンジョイの目的を達成できるような工夫も図った。これら全てを毎時間繰り返すことで、語彙や文章が既習事項となって子供の中に自然と積み重ねられていくとともに、それら既習事項の中から子供が何をを使うか自身で思考・判断・表現し、主体的で対話的なコミュニケーションが積極的に行えるようになる。

### (2) 研究の仮説

#### 仮説 1

小学校外国語活動において、子供たちの身近で興味のある状況設定や豊富な交流場面の設定を行うことで、活動に必然性が生まれ、子供たちは主体的に学び合い、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ることができるようになるのではないかと。

#### 仮説 2

小学校外国語活動において、豊富なインプットとエンジョイを与え続けることで、子供たちの英語の語彙力や英語の学習に向かう意欲が高まり、子供たちは主体的に学び合い、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ることができるようになるのではないかと。



【目指す子供像】 主体的に学び合い、英語で積極的にコミュニケーションを図る子供

【研究の柱】 1 子供たちの身近で興味のある状況設定と豊富な交流場面の設定 (青で示す)  
2 豊富なインプットとエンジョイの意識 (黄で示す)

### (3) 研究の計画

時期	計画内容
前年度 ～ 4月	① 児童の実態把握（前年度～新年度当初） ② 現学習指導要領と We Can! 2 の内容に合った、単元目標と評価規準の設定 ③ ②の単元目標と評価規準を組み込んだ、単元の指導計画の作成 < <b>子供たちの身近で興味のある状況設定・交流場面の設定</b> >
	仮説 1 の検証
4月 ～ 11月	④ ③の指導計画に沿った、各単元の振り返りカードの作成 ⑤ ①～④に合った、教材・教具の作成 ⑥ ①～⑤を生かした板書計画・発問計画（授業の組立） ⑦ 実際の指導< <b>豊富なインプットとエンジョイの意識</b> > ⑧ 実際の指導の振り返りと、次の指導へのフィードバック
	仮説 2 の検証
12月	⑨ 児童の変容確認（実態調査・行動確認・振り返りカードやワークシートのチェック）

### 3 研究の実際

研究の実際について、6年外国語活動「What do you want to be?」の指導を例に述べる。

#### (1) 単元の計画<仮説1の検証>

##### ア 単元目標と評価規準の設定

移行期最終年度であることから「現学習指導要領の指導内容で指導を行うこと」と、「新学習指導要領へのつながりを意識すること」に留意して作成に当たった。

<単元の目標・評価計画>

6年 UNIT 8 単元名「What do you want to be?」		全8時間	
<b>単元の目標</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>将来就きたい職業などについて、聞いたり言ったりしながら、積極的にコミュニケーションを図る。【コ】</li> <li>基本的な表現「What do you want to be?」「I want to be ~」等を使って、将来の夢を尋ねたり、答えたりする。【慣】</li> <li>様々な職業の日本語と英語の表現の違いに気付く。【気】</li> </ul>			
	<b>評価の観点</b>	<b>評価規準</b>	
現学習指導要領での観点	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来就きたい職業等について、聞いたり言ったりしながら、積極的にコミュニケーションを図っている。</li> <li>相手の話にリアクションをして、積極的にコミュニケーションを図っている。</li> </ul>	
	イ 外国語への慣れ親しみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な表現「What do you want to be?」「I want to be ~」等を使って、将来の夢を尋ねたり、答えたりしている。</li> <li>基本的な表現「I can」「I like」「I'm good at」等を使って、夢の理由を話したり、聞き取ったりしている。</li> </ul>	
	ウ 言語や文化に関する気付き	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な職業の日本語と英語の表現の違いに気付くことができている。</li> </ul>	
新学習指導要領での観点	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来就きたい職業などについて、聞いたり言ったりしている。</li> </ul>	
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来就きたい職業やしたいこと、その理由などを伝え合う。また、将来の夢について簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を推測しながら読んだり、例を参考に語と語の区切りに注意しながら書いたりしている。</li> </ul>	
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者に配慮しながら、将来の夢について伝え合おうとしている。</li> </ul>	
	五領域	聞くこと	
		話すこと(やり取り)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合っている。</li> </ul>
		話すこと(発表)	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味を理解している。</li> </ul>
		読むこと	
書くこと		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている。</li> </ul>	
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ What do you want to be? I like (animals). I want to be a (vet). I can (play the piano well). I am good at (playing the piano). That's (good). Good luck.</li> <li>○ be, luck, future, 職業(artist, astronaut, baker, bus driver, comedian, dentist, farmer, figure skater, flight attendant, pianist, pilot, singer, train conductor, zookeeper), chalk</li> <li>[既出] 職業, 動作, 動詞の過去形(went, ate, saw, enjoyed, was), スポーツ, 動物, 飲食物, 状態・気持ち, 身の回りの物, 教科</li> </ul>		
★	他教科との関連・・・ 図工「12年後の私(将来の夢)」, 国語「今, わたしは, ぼくは」, 総合的な学習「卒業文集を作ろう」		

- ※ 現学習指導要領の外国語活動に合った目標を設定した。
- ※ 現学習指導要領での評価規準を設定したが、新テキスト(We Can!)の内容を加味した。
- ※ 新テキスト(We Can!)は新学習指導要領に合った内容のため、新学習指導要領の評価規準も設定した。
- ※ 新学習指導要領へのつながりとして、五領域での評価規準も設定し、各技能の向上を図った。
- ※ 言語事項は新学習指導要領に合ったものであるが、定着ではなく慣れ親しみを重視して指導することとした。
- ※ 他教科との関連や地域素材・学校行事との関連を探り、子供にとってより身近な状況設定につなげる工夫をした。

##### イ 単元の指導計画の作成

アで示した目標と評価計画を基に組み立てた。必然性のある状況設定を意識し、子供に示す単元の最終目標を魅力あるものにする工夫をした。例えばこの単元では、他教科や卒業式との関連を図り、「卒業直前の授業参観で『将来の夢発表会をしよう』」というゴールを設定した上で、そのためには英語を使って何ができるようになればよいかを考えて単元を構成した。卒業に向けて気持ちが高まりつつある子供たちには身近で親しみやすい状況設定となった。

<単元の指導計画（全8時間）>

【ゴールの設定】卒業目前の授業参観で『将来の夢発表会』をしよう

【ゴールイメージ】

- 図工で制作した12年後の自分像をもちながら、英語で将来の夢のスピーチをしたり、国語の作文を読み合ったりして、保護者に将来の夢と今までの感謝を伝える。

【そのために、英語を使って何ができるようになればよいか】

- 基本的な表現を使って将来の夢を尋ねたり答えたりすることができる。
- 基本的な表現を使って理由を話したり、聞き取ったりすることができる。

【最終時まで身に付けさせたい英語の表現】

[What do you want to be?][I want to be a ～.][I can/like/am good at～.]

L:Let's listen WT:Let's watch and think P:Let's play T:Let's talk RW:Let's read and write  
C:Let's chant A:Activity S:small talk R:Let's read W:Let's write We Can 2!内の活動

過程	時	主な学習活動	指導上の留意点 ★評価
つかむ	1	○ 職業を表す語を聞いて分かる。 S C: What do you want to be? P:ポインティングゲームで新出単語に慣れ親しむ。 RW:(8-1) I want to be a pilot.	・ 「I want to be ～。」の言い方を繰り返し取り入れ、慣れ親しませる。 ・ ワークシートに英単語をなぞり書きさせる。 ★ 英語と日本語とでは、職業の言い方が違うことに気付いている。 <行動観察・振り返りカード>
	2	○ 得意なこと、不得意なことについて伝え合う。 S C: What do you want to be? WT1: DVDを視聴して分かったことを書く。 T:得意なことや不得意なことなどをペアで話す。 RW:(8-3) I am good at playing soccer.	・ お互いの得意なこと不得意なことを尋ね合い、積極的に交流できるような場を設定する。 ・ 基本的な表現 (I am good at～. I am not good at ～.) を使って会話させる。 ★ 得意なことや不得意なことについて尋ねたり答えたりして積極的にコミュニケーションを図っている。 <行動観察・振り返りカード点検>
見通す	3	○ 職業についてまとまった話を聞いて理解したり、就きたい職業を言ったりすることができる。 SC: What do you want to be? WT2/3:映像を見て、分かったことを書く。 RW:(8-2)What do you want to be?	・ DVD教材を聞く活動を中心に、会話の話型 (What do you want to be? / I want to be a ～.) に慣れ親しませる。 ・ ワークシートに英単語をなぞり書きさせる。 ★ 就きたい職業について話す内容を正しく聞き取っている。 <行動観察・振り返りカード点検>
	4	○ 将来の夢についての話を聞いて、就きたい職業やその理由が分かる。 C S T:音声を聞いて、誰がどんな夢をもっているかを理由とともに聞き取り、記入する。 T:どんな職業に就きたいか、友達に尋ねたり答えたりする。	・ 会話の話型を繰り返し活動に取り入れ、子供が表現に慣れ親しむ工夫をする。 ・ 映像を視聴して、聞き取ったことをテキストに記入させたり、内容について友達と話し合わせたりする。 ★ 就きたい職業について、話す内容を正しく聞き取っている。 <行動観察・誌面点検・振り返りカード>
調べる			

※ 他教科との関連を図ったり、発表相手を保護者に設定したりすることで、表現の必然性を生むよう努めた。

※ 慣れ親しみを重視した指導の中でも、特に身に付けさせたい言語事項を絞り定着を図った。

※ どの時間も核となる表現を決め、それを繰り返しインプットすることで理解を促した。

※ 特に単元前半では、聞く活動を多く取り入れることで、聴覚からのインプットを図った。

※ 書く活動は中学校へのつながりを意識し、ワークシートの例をなぞる・写す活動をさせた。

※ 聞き取ったことを友達と確認させ、自信をもって活動をすすめた。

	5	<p>○ 就きたい職業について、理由を含め伝え合う。</p> <p><b>C:</b> What do you want to be?</p> <p><b>S:</b> 自分の得意なこと・できること</p> <p><b>A:</b> ペアになって将来の夢を尋ね合う。</p> <p><b>RW:</b> (8-4) I want to be a teacher.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達同士の交流活動を取り入れ、お互いの将来の夢を伝え合うことを楽しませる。</li> <li>基本的な表現 (What do you want to be? / I want to be a ~.) を使って会話させる。</li> <li>★ 基本的な表現を使って、就きたい職業を尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・誌面点検・振り返りカード〉</li> </ul>
深める	6	<p>○ 例を参考にして、自分の夢について書く。</p> <p><b>C:</b> What do you want to be?</p> <p><b>RW:</b> (8-5) スピーチ原稿を書く。</p> <p><b>R:</b> スピーチ原稿を読み合い、文字の正しさやスペースの空け方などを確かめ合う。</p> <p><b>【sound and letters】 8-6</b> <b>[sound SH]</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DVDのネイティブのスピーチを聞き、正しく内容を聞き取らせる。</li> <li>英文をまねて書かせたり、サウンドレターで単語を発話させたりして、文字に慣れ親しませる。</li> <li>★ 基本的な表現を使って就きたい職業を尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</li> </ul>
まとめる	7	<p>○ 例文などをもとに、自分の将来の夢について、理由を含めて書こうとする。</p> <p><b>T:</b> 前時に書いた思い出を自分で読む。</p> <p><b>W:</b> スピーチ原稿を清書し、絵も描き入れる。</p> <p><b>RT:</b> 映像を見て、働く人たちの話から、分かったことや感じたことを発表し合う。</p> <p><b>【sound and letters】 8-7</b> <b>[sound TH]</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの内容を生かしたスモールトークを行う。</li> <li>ワークシートに自分の将来の夢について、なぞったりまねたりしながら書き込ませる。</li> <li>サウンドレターで、文字に慣れ親しませる。</li> <li>★ 基本的な表現 (What do you want to be? / I want to be a ~.) 等を使って、就きたい職業について話したり聞いたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</li> </ul>
生かす	8	<p>○ 将来の夢について書かれた原稿を読み、内容が分かる。</p> <p><b>R:</b> 自分の将来の夢についてスピーチする。</p> <p>※Who am I? ゲームをする。</p> <p><b>【sound and letters】 8-8</b> <b>[sound TH]</b> <b>【STORY TIME】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に書いた原稿を活用し、スピーチさせる。</li> <li>お互いの内容について Who am I? クイズをする。</li> <li>STORY TIME を聞かせ、楽しく授業を終える。</li> <li>★ 基本的な表現等を使って、就きたい職業について話したり聞いたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</li> </ul>

※ 参観者を交流相手に設定することで、表現の必然性が生まれ、主体的で楽しいコミュニケーション場面となった。

※ 既習事項(インプット)の中から自分の思いに合った表現を選ばせ、英文を作らせた。(アウトプット)その際、主体的・対話的な学びとして、友達と相談しながら作らせるようにした。

※ 発表を聞いて終わりではなく、クイズにすることで、楽しさが増し、より積極的に発表を聞く様子が見られた。

(2) 実際の指導 I <各単元の指導準備>

ア 各単元の場面設定と振り返りカードの作成

本校の研究で共通理解している方法を基に、単元ごとの振り返りカードを作成した。また、作成した単元計画を基に、単元を貫く言語事項が何であるかや各時間の主となる言語事項をつかみ、振り返りカードでもそれらを順序よく配列し、明記するようにした。さらに、子供たちが自己評価しやすいように、できるだけ短く分かりやすい一文で書くように努めた。

**本校の振り返りカードの作り方**

- 各単位時間、4項目で構成する。
- 4項目の内、①～③は、現学習指導要領の三観点に合わせる。(①コミュニケーションへの関心・意欲・態度、②外国語への慣れ親しみ、③言語や文化に関する気付き)
- ④は、本校の主題に関わることとする。(④コミュニケーションの資質・能力に関する項目)

Unit 8 [What do you want to be?] ～将来の夢を語ろう！～

- ◎ 就きたい職業について、進んでたずねたり答えたりしよう！
- ◎ なりたいことを表現する言い方を意識して、将来の夢を伝え合ったり、書いたりしよう！
- ◎ 将来の夢とその理由を、友達や先生に発表して伝えよう！

※ 4項目について自己評価させ、自身の課題を見付けたり、達成感を感じたりできる工夫した。

date	Check!	◎○△	Write your comment
	①聞き取ったことを話し合いながら、積極的に交流することができましたか。		
	②「I want to be a ～」を使った表現を聞き取ることができましたか。		
	③様々な職業の言い方が分かりましたか。		
	④目線・声の大きさ・笑顔に気を付けて、活動することができましたか。		
	①聞き取ったことを話し合いながら、積極的に交流することができましたか。		
	②「I am(not) good at ～」を使って自分の得意・不得意なことを表現することができましたか。		
	③得意なこと・不得意なことの言い方が分かりましたか。		
	④目線・声の大きさ・笑顔に気を付けて、活動することができましたか。		

※ 毎時間、感想を書かせ、教師も必ずコメントを書くことで、次時への意欲につなげた。

イ 交流のポイントカード

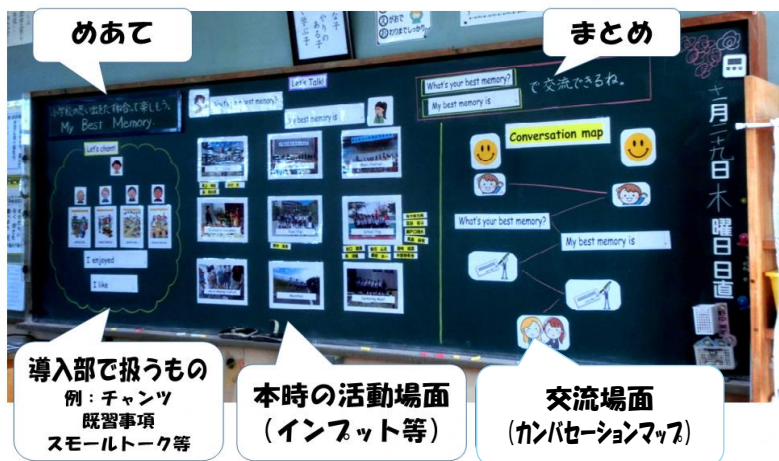


コミュニケーションの素地となる、目線・笑顔・声量を、交流のポイントカードで示し、留意するよう促した。これらを教師が自らが実践して見せることで、子供たちもポイントに留意しながら活動できるようになってきている。

また、ALTの先生の協力を得てリアクションカードも作成した。日頃親しんでいる先生の姿を通してリアクションのパターンを学ぶことで、子供たちの英語の語彙の幅が広がり、交流がより豊かなものになってきている。

ウ 板書計画・カンバセーションマップの活用

① 板書の型



外国語活動の授業の板書について、左の写真の基本形とすることを共通理解した。

毎時間この板書で授業を行うことで、子供たちは授業の型に慣れ親しんでいる。その結果、子供たち自身が授業の流れを板書でつかむことができるようになり、授業の見通しをもったり、安心して活動に取り組んだりする様子が数多く見られるようになってきている。

② カンバセーションマップ

主体的・対話的で深い学びの実現のために、毎時間交流場面を取り入れることとし、交流内容を板書でも示すようにした。上の写真の右下にある、カンバセーションマップがそれに当たる。これは、本時を貫く会話の型を視覚化し、実際の交流場面で活用するものである。

交流場面に至るまでに、会話の型や語彙を繰り返しインプットするが、子供によってはまだ理解が十分でなかったり、自信がもてていなかったりすることもある。そのような時に、安心して会話に取り組むための手掛かりとして大変有効であった。

(3) 実際の指導Ⅱ＜仮説2の検証：各時の具体的な指導＞

**ア 6年「What do you want to be?」の実践**

① 目標

将来の夢を尋ねたり答えたりする表現を使って、友達と就きたい職業を尋ね合い、会話をし  
て楽しむ。

② 指導に当たって

本時では、まず、様々な職業の言い方や就きたい職業を尋ね合う話型に慣れ親しませる。交  
流の際、子供同士が積極的に交流できるよう、十分にインプットしておく。また、表情や反応  
の言葉などにふれることで、アクション・リアクションの喜びと、できたという達成感を味わ  
わせたい。

過程	主な学習活動	時	指導上の留意点 ★評価
つかむ	1 あいさつをする。 2 既習事項を想起する。	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ、天気、日時等について会話をさせる。</li> <li>既習事項を生かして、small talk を行う。</li> <li>前時までに学習した単語の復習やチャンツで授業を楽しく始める。</li> <li>本時のめあてをつかむ。</li> </ul>
見通す	3 本時のめあてをつかむ。【目標の明確化】 友達の就きたい職業は何かな。		
調べる	4 Activity 【子供が主役となる学び】 <ul style="list-style-type: none"> <li>新出単語の読み方を知り復唱する。</li> <li>ポインティングゲームをする。(p.58)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     teacher , soccer player , baker , doctor , bus driver , artist , zookeeper , fire fighter , dentist , pilot , flight attendant , farmer                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>Activity(p.61)の会話の仕方を知り、復唱する。</li> <li>友達と就きたい職業を尋ね合い、交流を深める。</li> <li>リアクションをとりながら、会話を楽しむ。</li> <li>友達の就きたい職業クイズをする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     What do you want to be ?                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     I want to be a ~.                 </div>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に出てくる単語の言い方を教え、ゲームを通して発声させる。</li> <li>教材の絵を使ってポインティングゲームをする。既習事項を織り交ぜて行う。</li> <li>発音の気を付けるべきところは、助言する。</li> <li>難しい単語は何度か復唱させる。</li> <li>★ 職業の名前を正しく理解することができたか。</li> <li>お互いの就きたい職業の聞き方・答え方を発話させる。(What do you want to be ? / I want to be a ~.)</li> <li>前時に考えた自分の就きたい職業を想起させる。</li> <li>交流で気を付けることを簡単に押さえる。</li> <li>カンバセーションマップを参考にして、楽しく会話をさせる。</li> <li>交流場面が終わったら、子供をピックアップしながら、「この人の就きたい職業は何?」クイズを行う。</li> <li>時間が余ったら、参観者にも問うてくるよう指示し、積極的な交流を図らせる。</li> <li>教師が積極的に話す姿を見せることで、子供の意欲を高め、活動を促す。</li> <li>★ 将来の夢を尋ねたり答えたりする表現を使って、友達と就きたい職業を尋ね合い、会話をし楽しむことができたか。</li> </ul>
深める	【ラスト10分の充実】		
まとめる	5 学習のまとめをする。 What do you want to be ~? / I want to be a ~.で伝え合える	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>Let's read and write[8-4]のワークシートを使って、写し書きやなぞり書きをさせる。</li> <li>本時のコメントを書かせる。(振り返り)</li> <li>早く書き終えた子供には、ワークシートの内容を読み書きさせる。</li> <li>時間が残ったら、次時の予告や、本時のおさらいを行う。</li> <li>★ 自分や友達の活動を振り返り、まとめて書くことができたか。</li> </ul>
生かす	6 本時の振り返りをする。 7 次時の学習について知る。		

※ エンジョイを意識しながら授業の導入で既習事項を扱うことで、前時の学習内容の定着を図る。

※ テンポ良く学習を進め、同じ会話でも、活動を変化させることで、楽しく飽きさせない工夫をした。

※ 同じ会話を繰り返してインプットすることで、子供たちの語彙力や表現力を高めるよう努めた。

※ カンバセーションマップを活用し、主体的なコミュニケーションが図れるようにした。

※ 交流相手を初対面の参観者にする事で、表現の必然性を生み、より活発で主体的なコミュニケーションが図れるようにした。



③ 本時内での指導の工夫と成果

【子供たちの身近で興味のある状況設定と豊富な交流場面の設定（工夫）】

- ・カンバセーションマップを使った交流場面を設定し、十分に友達と交流できる時間を確保した。
- ・一般の参観者との交流を行うことで、表現の必然性を生み、積極的な活動につなげた。

【インプットとエンジョイの意識（工夫）】

- ・チャンツやスマールトークで楽しく授業を始め、雰囲気作りに努めた。
- ・授業前半で本時の主要語句や会話のインプットを行った。教師の例示、復唱、ネイティブの音声、板書（絵カード）等により、視覚的・聴覚的で豊富なインプットを目指した。

【主体的に学び合い、英語で積極的にコミュニケーションを図る子供の姿（成果）】

本時で見られた主な成果を、以下に示す。



＜カンバセーションマップの作成＞

子供たちは交流場面の会話の型を自分たちで作ることができた。既習事項を生かした主体的な活動場面となった。



＜友達との交流＞

子供たちはカンバセーションマップを手掛かりに、友達同士で積極的に英語でのコミュニケーションを楽しむことができた。



＜参観者との交流＞

子供たちは、初めて出会った先生方と英語で積極的に交流し、将来の夢を伝え合うことができた。笑顔あふれる場面である。



＜自主的な振り返り＞

子供たちは授業の型に慣れ、特に指示がなくても自主的に振り返りを行っていた。早く終わったら本日の言語事項を友達と発話し始め、積極的に英語と関わっていた。

④ 参観者の感想から見える成果

本授業は、研究公開の公開授業として、40人の参観者を得て実施した。その感想から分かる授業の成果と課題をいくつか抜粋して紹介する。

- 一時間の流れが定着していて特にほめなくても当たり前のように進んでいました。
- インプットの量が本当に豊富で驚きました。
- 10人の数とは思えないほどの声量で、ずっと積極的な発表であったという間の45分間でした。たくさん話して、たくさん書いて、満足して家に帰っていく、英語を勉強したなという満足感でいっぱいの子供たちの顔でした。
- 小学校の「楽しい英語」と中学校の「教科性の強い英語」のつながりが難しいと感じています。

## イ 6年「What do you want to watch? / My best memory.」の実践

他に細案での授業や参観授業も行った。その中の工夫と成果は以下のとおりである。

### ① We Can! 2 UNIT 6 「What do you want to watch?」の実践（参観1回）

#### 【工夫<子供たちの身近で興味のある状況設定・インプットとエンジョイの意識>】

- ・ 来年度オリンピックが開催されることに触れ、自分が本当に見たい競技を考えさせることで、より身近で興味のある場面設定につながり、子供たちの意欲も高まった。
- ・ 豊富なインプットとエンジョイを意識し、授業をオールイングリッシュで行った。

#### 【成果<主体的に学び合い、英語で積極的にコミュニケーションを図る子供>】

- ・ 子供たちは実際に来年見たい競技を伝え合いながら、一緒にテレビを見る友達さがしに積極的に取り組むことができた。話型もよく定着し、積極的に発話していた。

### ② We Can! 2 UNIT 7 「My best memory.」の実践（参観6回）

#### 【工夫<豊富な交流場面の設定・インプットとエンジョイの意識>】

- ・ 参観授業を6回組むことができたことを利用し、参観者との交流場면을豊富に取り入れることで、子供たちの交流への意欲を高めた。
- ・ 小学校の思い出を実際の写真で振り返り、楽しく活動に取り組めるようにした。

#### 【成果<主体的に学び合い、英語で積極的にコミュニケーションを図る子供>】

- ・ 実際の写真や思い出を振り返りながら発表することで、思い出の共有につながり、大変楽しく充実した活動になった。

## 4 研究のまとめ

### (1) 研究の成果

本年度の実践前と実践後の6年生の実態である。（児童数10人、数値は全て%）

ア 技能 (全正答数÷全問題数×100=正答率)	実践前 (H31.4月)	実践後 (R1.12月)	差	
【聞く活動】教師が発話した英語の意味を書く。(5問)	90.0	96.0	+6.0	
【話す活動】絵の名前を英語で言う。(5問)	86.0	94.0	+8.0	
【話す活動】英文字を見て、意味を言う。(5問)	40.0	68.0	+28.0	
【読む活動】英文字を見て、読む。(5問)	54.0	68.0	+14.0	
【書く活動】教師が発話した英単語を英語で書く。(5問)	44.0	84.0	+40.0	
【書く活動】アルファベットをAから順に書く。	40.0	60.0	+20.0	
【書く活動】自分の名前をローマ字で書く。	70.0	90.0	+20.0	
イ 意欲				
【英語授業への意欲】外国語活動は好きですか。	100.0	100.0	±0.0	
【活動への意欲】 どの活動が好きですか。	友達や先生との交流	70.0	100.0	+30.0
	ゲーム	100.0	100.0	±0.0
	英語を聞く	40.0	100.0	+60.0
	英語で話す	70.0	100.0	+30.0
	単語や会話を覚える	30.0	100.0	+70.0
	英語の文字を見て読む	30.0	70.0	+40.0
	英語の文字を書く	20.0	40.0	+20.0
	外国の人と交流する	60.0	80.0	+20.0

技能、意欲ともに、全ての項目で数値が向上した。特に「覚える活動」「聞く活動」「交流する活動」の意欲が大きく向上していることが分かった。このような意欲の向上は技能の定着に結び付き、そうして技能が向上すれば、また意欲が向上していく。こうした技能と意欲の相互関係を生かし、今後も研究に取り組んでいきたい。

### (2) 今後の課題

実践を通して、全体的な伸びは強く感じつつも、個々に定着や意欲の度合いが違うことも感じた。今後はそのような個人差にどのような手立てを行っていけばよいのかを考え、実践を通して研究を深めていきたい。